

# 平成 21 年度当初予算 主要事業の概要

(単位：千円)

## 政策1 背後圏の産業を物流面から支え、地域経済の進展に大きく貢献する港づくり

3,730,580 千円(うち特会 1,970,447 千円)

### 施策 101 港湾サービスの提供と利便性の向上 262,849 千円(うち特会 172,247 千円)

#### 港湾荷役支援の推進 70,128 千円 (うち特会 70,128 千円) [H20]71,363 千円

円滑な港湾活動の実施を目的とし、港湾施設(クレーンなどの荷さばき施設、上屋等)の適切な管理・運営を行う。具体的な経費としては、施設の光熱水費や保守経費等。

#### ○港湾利用船舶支援の推進 77,679 千円(うち特会 704 千円) [H20]77,653 千円

けい留施設の使用に関して適正な船席の指定を行い、四日市港に入出港しようとする船舶の活動が効率的かつ安全に行われるよう支援する。具体的な経費としては、船舶との無線通信業務委託や岸壁着離岸の立会業務委託、給水船業務委託等。

#### ひき船「ちとせ丸」運営費 52,317 千円(うち特会 52,317 千円) [H20]56,071 千円

現在のちとせ丸は平成 15 年 3 月に就航。四日市港のひき船事業の体制はちとせ丸を入れて 4 隻体制で運営している。具体的な経費としては、燃料費(重油)、無線通信業務委託、定期修理工事等。平成 20 年度は、6 年に 1 度の法定定期修理工事(エンジン等をすべて船体から取り外し、オーバーホールを行う。)であったため、結果として平成 21 年度は予算減となっている。

#### 航路サービス網の充実 4,529 千円 [H20]4,912 千円

具体的な経費としては、船社や荷主企業等の訪問旅費、四日市港セミナー開催経費、四日市港利用促進協議会への負担金等。

※一般会計「ポートセールス事業費」9,057 千円÷2=4,529 千円(残り半分は施策 102 のポートセールス活動の推進で計上。)

#### ○四日市港利用促進事業費 60,000 千円 (うち特会 60,000 千円) [H20]50,000 千円

平成 20 年度に新設した、環境負荷(CO<sub>2</sub>排出)の低減を図ろうとする民間事業者の取組み支援を目的とした「グリーン物流促進補助制度」(予算 20,000 千円)について、対象地域限定の撤廃等の制度の見直しを行い、より広く利用しやすいものへ改正を行った上で継続する。また、新規メニューとして、「北米等基幹航路維持安定化支援事業」(予算 40,000 千円)を創設し、北米を主な市場とする背後圏企業の産業活動を物流面から支えるため、北米航路の維持安定化に向けて取り組む。事業内容としては、1 年間以上の寄港実績がある航路を対象とし、4 経費(水先料・エスコートボート料・ひき船使用料・綱取放料)の 3 分の 1 相当額補助及び実入取扱量 1 TEU 当たり 2,000 円(上限 500 千円)の補助であり、1 寄港あたりの補助の上限は 1,000 千円とする。また、事業(補助)期間は最大 2 年間とする。

※施策 101 の予算額には北米等基幹航路維持安定化支援事業補助分を計上し、グリーン物流促進補助分は施策 102 に計上している。

## **施策 102 港湾利用の促進 30,728 千円(うち特会 26,200 千円)**

### **ポートセールス活動の推進 5,228 千円(うち特会 700 千円) [H20]5,658 千円**

具体的な経費としては、船社や荷主企業等の訪問旅費、四日市港セミナー開催経費、四日市港利用促進協議会への負担金。あわせて、グリーン物流促進補助制度のPRも行う。

※一般会計「ポートセールス事業費」9,057 千円÷2=4,528 千円 + 特別会計「ポートセールス事業費」のうち、グリーン物流促進補助事業にかかる説明会旅費、パンフレット作成費、広告掲載料等 700 千円=5,228 千円

### **○[再掲] 四日市港利用促進事業費 60,000 千円 (うち特会 60,000 千円) [H20]50,000 千円**

平成 20 年度に新設した、環境負荷(CO2 排出)の低減を図ろうとする民間事業者の取組み支援を目的とした「グリーン物流促進補助制度」(予算 20,000 千円)について、対象地域限定の撤廃等の制度の見直しを行い、より広く利用しやすいものへ改正を行った上で継続する。また、新規メニューとして、「北米等基幹航路維持安定化支援事業」(予算 40,000 千円)を創設し、北米を主な市場とする背後圏企業の産業活動を物流面から支えるため、北米航路の維持安定化に向けて取り組む。事業内容としては、1 年間以上の寄港実績がある航路を対象とし、4 経費(水先料・エスコートボート料・ひき船使用料・綱取放料)の3分の1相当額補助及び実入取扱量 1 TEU 当り 2,000 円(上限 500 千円)の補助であり、1 寄港あたりの補助の上限は 1,000 千円とする。また、事業(補助)期間は最大 2 年間とする。

※施策 102 の予算額にはグリーン物流促進補助分を計上し、北米等基幹航路維持安定化支援事業補助分は施策 101 に計上している。

## **施策 103 港湾活動にかかる安全の確保 159,553 千円**

### **清港活動の推進 37,614 千円 [H20]34,458 千円**

港内施設(水域、岸壁、物揚場、護岸、道路、公園・緑地)のゴミの収集・処理及び清港啓発活動(NPO 法人四日市清港会への委託)。

※実際の清港会への委託料については、施策 301 緑地・公園の維持管理のなかで計上している 10,000 千円とあわせて、37,614 千円+10,000 千円=47,614 千円である。

### **巡視船「かもめ」の運営 10,225 千円 [H20]10,384 千円**

現在のかもめは昭和 63 年 10 月に就航。港湾区域の巡視、港湾施設点検、流出油事故対応、環境調査及び港内視察等の用に使用している。具体的な経費としては、燃料費(軽油)、定期修理工事等。

### **○改正 SOLAS 条約対策の推進 111,423 千円 [H20]78,078 千円**

改正 SOLAS 条約の要請にそった、保安設備の維持管理、水域・陸域の警備等、港湾の保安対策を行う。具体的な経費としては、警備の委託料や YCT への負担金。SOLAS の対象区域としては、W2、3、8、9、13、14、15 (以上 千歳地区)、W22、23、24、25、26、27、62、80 (以上 霞地区)である。平成 20 年度と比較すると、平成 21 年度は、保安警備業務委託(3ヶ年契約)が更新年を迎えるため、前回の契約額が低入札であった経緯を考慮し、契約更新にかかる見込みとして、設計額分の予算措置を行ったことにより増額。([H20]46,598 千円→[H21]84,633 千円)

## 施策 104 港湾経営基盤の充実・強化 3,277,450 千円(うち特会 1,772,000 千円)

### ○霞ヶ浦北ふ頭国際海上コンテナターミナルの整備 1,200,000 千円(うち特会 1,200,000 千円)

[H20]300,000 千円

平成 17 年度に竣工した 80 号岸壁の背後地の土地造成(地盤改良工事約 5 ha)を引き続き行い、国際海上コンテナターミナルの整備を進める。平成 21 年度は、舗装工事、電気設備工事、雨水排水設備工事を行う。また、直轄事業において外周フェンス工事、霞北 1 号幹線道路工事を行う。(北ふ頭工事については 21 年度工事で完成予定。)

### ○千歳運河物揚場の石積補修 10,000 千円 [H20]27,000 千円

千歳運河の物揚場(総延長約 1,900m)は石積みであり、修景上の配慮も必要な状況にあるが、老朽化により一部には崩壊しているような箇所もあるため、石積みによる修復を引き続き行う。平成 21 年度は千歳 4 号物揚場の修復を前年度に引き続き行う。

### ○岸壁の補修 156,000 千円

千歳地区 15 号岸壁について、地盤改良工による液状化対策を行うもの(継続事業)。平成 21 年度は、薬液注入工を実施する。平成 22 年度工事で終了予定。

国補港湾改修事業(国 1/2) [H20]300,000 千円 H16~22 総事業費 25 億円

### ○維持管理計画の策定 10,000 千円 新規事業

従来の事後保全的維持管理から予防保全的な維持管理への転換を促進させるため、維持管理計画策定の補助制度が平成 24 年度までの時限的な措置として制定された。(平成 25 年以降は、改良・更新を行う場合、維持管理計画に基づき適切に維持管理された施設のみが補助事業の対象となる。)四日市港管理組合においては、平成 19 年度末に維持管理計画策定リストを国土交通省に提出し、平成 20 年度は既存資料の収集を行っている。平成 21 年度には、既存資料の整備業務及び共通ガイドラインの作成を行い、平成 22 年度~24 年度に維持管理計画の作成(補助対象)を行う。

### ○上屋の耐震補強計画の策定 40,000 千円(うち特会 40,000 千円) [H20]40,000 千円

上屋については、使用率が 100%に近い一方、施設としては昭和 30~40 年代に建設したもので老朽化が著しい状況となっている。このため、港湾労働者の人命及び荷主の貨物保持の観点から、早急な耐震化の対応が必要となっている。平成 20 年度に全 20 棟の耐震診断を行ったところ、過去の統計から震度 5 程度の地震でも大破しないとされている I S 値(耐震指標) = 0.6 を基準とした場合に、I S 値が 0.6 を下回る箇所を有することが判明した上屋の存在が判明したため、引き続き耐震補強計画等の策定を行う。

### ○第 1 航路・泊地の浚渫 386,000 千円 [H20]187,000 千円

水深調査結果を踏まえ、早急に浚渫を要するエリアについて、平成 20 年度より計画的に実施している(なお、第 1 航路については平成 19 年度 3 月補正としても 100,000 千円計上)。平成 21 年度は第 1 航路 356,000 千円+泊地 30,000 千円。

航路 国補港湾改修事業(国 1/2) H19~22 総事業費概算 11 億

泊地 単独港湾施設維持補修費 H20~ 総事業費概算 23 億(午航路含む)

### 石原地区(浚渫土砂埋立区域)築堤嵩上げ 300,000 千円 [H20]30,000 千円

石原地区の浚渫土砂埋立区域 78.1ha においては、護岸工事の進捗に合わせながら平成 6 年度より港内から発生する浚渫土砂等を投入してきたが、埋立地では予想を上回る沈下が見られたほか、平成 13 年度に外周護岸の補強ならびに築堤嵩上げを行ったことにより、平成 19 年度末までに約 994

万<sup>3</sup>の浚渫土砂の投入を行った。今後の第1航路をはじめとする浚渫計画ならびに新たな埋立事業の着手計画もない現状を考慮すると、浚渫土砂の受入は引き続き石原地区とならざるを得ないが、同地区の受入余量は十分とは言えないため、同地区の浚渫土砂埋立区域の一部16haを2mの高さで築堤による嵩上げを行い、受入土量の増大（圧密沈下を考慮すると、約400,000<sup>3</sup>）を図るものである。

**○霞4号幹線の整備(国直轄事業)770,000千円(国事業費2,310,000千円×組合負担1/3)**

四日市港霞ヶ浦地区と第2名神高速道路を結ぶ国直轄事業「霞4号幹線」の整備を進める。(国直轄事業負担金の負担：国事業費×1/3)。平成21年度は、北ふ頭内の橋梁上部工、舗装工及び海上部の下部工を実施する。

**国の総事業費 270億円 四日市港管理組合負担分 90億円**

**[H20]3月補正後 509,166千円(国事業費1,527,498千円)**

**霞防波堤の整備(国直轄事業)70,000千円(国事業費210,000千円×組合負担1/3)**

霞ヶ浦北ふ頭前面泊地の静穏度を確保する国直轄事業「霞防波堤」の整備を進める。(国直轄事業負担金の負担：国事業費×1/3)。平成21年度はケーソン3函の据付を実施する。

**国の総事業費 16億円**

**[H20]3月補正後 102,656千円(国事業費307,968千円)**

**霞ヶ浦北ふ頭80号岸壁SOLASフェンス整備工事(国直轄事業)10,000千円**

**(国事業費30,000千円×組合負担1/3)**

霞ヶ浦北ふ頭コンテナターミナルの平成22年度からの全面供用に向けた準備の一環として、SOLASフェンスの拡張整備を行う。

**[H20]3月補正後 15,000千円(国事業費45,000千円)**

**千歳地区 モータープール、簡易上屋補修 80,000千円 新規事業**

モータープール及び簡易上屋の老朽化により設備の錆びが顕著になってきており、施設利用者から、雨天時などに錆びが車に付着する危険性があることを指摘されていることから、全面的な再塗装を行うもの。なお、簡易上屋の2階部分の屋根は必要性が低いと判断されることから、撤去の方針。

**●その他の事業**

- ・コンテナ貨物物流調査データ分析業務 5,500千円

平成20年度に実施した5年に1度の「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」のデータを基に、背後地別・航路別・品目別等における四日市港の現状を分析し、今後の効果的なポートセールスにつなげる。

- ・国補港湾補修事業(国1/3、非適債)36,000千円  
千歳地区10・11・14号岸壁の防舷材補修25,000千円+霞2号幹線の舗装補修11,000千円
- ・8号岸壁の修繕10,000千円
- ・住吉運河の護岸補修(クラック補修)4,000千円
- ・千歳3号浮き棧橋補修8,578千円
- ・荷さばき地のオーバーレイ36,000千円(特別会計)
- ・上屋防潮扉補修19,700千円(特別会計)
- ・荷さばき地、上屋等の補修44,000千円(特別会計)
- ・石原地区護岸(産業廃棄物埋立エリア分)矢板嵩上げ工事54,000千円(特別会計)

- ・W27 コンテナクレーンのレール補修 25,000 千円 (特別会計)

## 政策2 災害に強く、県民や市民の安全・安心を支える港づくり 575,326 千円

### 施策 201 地震・高潮・津波等災害対策の推進 575,326 千円

#### ○高潮対策(護岸の補強) 430,000 千円 国補海岸高潮対策事業費 [H20]473,000 千円

富田港地区・富洲原港地区の高潮対策(護岸の補強)を行い、背後地域住民の安全確保を図る。

- ・富田港地区：海岸保全施設の整備(護岸補強工事約 60m) 400,000 千円
- ・富洲原港地区：同上(埋立計画に関連した護岸補強設計) 30,000 千円

富田港地区(整備総延長 358m) H15~26 総事業費 23 億円

富洲原港地区(整備総延長 1,266.4m) H5~27 総事業費 29 億円

#### ○海岸保全施設整備(耐震調査) 30,000 千円 [H20]25,000 千円

平成 16 年度から海岸保全施設の耐震検討及び地質調査を行っており、平成 21 年度は大協・午起地区。なお、平成 19 年度に耐震基準の改定が行われたことにもない、平成 20 年度は新基準により旧基準にて調査済の地区の再調査を行った。

H16 年度から継続実施中、21 年度で終了予定。

#### ○防潮扉の壁化 4,000 千円 [H20]4,000 千円

千歳地区の 5ヶ所の防潮扉を壁化

#### ●その他の事業

- ・新富洲原ポンプ場の維持管理経費負担金(→四日市市へ支払) 27,645 千円
- ・豊栄樋門排水機場補修 7,500 千円
- ・富洲原水門補修 12,000 千円
- ・住吉水門補修 15,000 千円

## 政策3 多くの県民や市民が訪れ、身近に感じられる港づくり

134,228 千円(うち特会 8,136 千円)

### 施策 301 環境と共生した魅力ある港空間の形成 118,742 千円(うち特会 8,136 千円)

#### ○緑地・公園の維持管理 83,099 千円 [H20]92,939 千円

霞ヶ浦緑地、霞港公園、シドニー港公園、富双緑地等の維持管理経費。

#### ○環境保全対策の実施 15,099 千円(うち特会 8,136 千円) [H20]17,242 千円

四日市港の水質・底質状況の把握及び埋立工事の環境監視のため、調査を実施する。

#### 阿瀬知川河口部の浚渫 20,000 千円 [H20]3,800 千円

阿瀬知川河口部における悪臭対策として、地元の河川環境浄化活動(EM菌)と連携しながら、ヘドロの浚渫を行うもの。平成 20 年度には浚渫に向けた現地測量を行い、浚渫箇所等の検討を行った。なお、浚渫は 2ヶ年程度で行う予定である。

#### ○地球温暖化対策の推進 634 千円 [H20]683 千円

ISO14001の規格維持、職員の研修への派遣

## 施策 302 港とふれあう機会の拡大 15,486 千円

### ○展望展示室の運営 10,449 千円 [H20]11,690 千円

多くの人々が四日市港に足を運び、親しみながら港を知ることができるよう、ポートビル内に設置した展望展示室の効率的な運用に努める。 入場料収入予算額 4,000 千円

・総入場者数： [H17]33,720 人 [H18]36,301 人 [H19]32,816 人 [H20]1 月末まで 32,327 人

・有料入場者数： [H17]12,948 人 [H18]4,553 人 [H19]11,830 人 [H20]1 月末まで 9,866 人

平成 20 年度は 1 月末までで前年同期比 3,404 人 (11.8%) の増

### ○親しまれる港づくり 2,947 千円 [H20]1,035 千円

「港まつり」をはじめとする各種イベントの開催や多様な主体との協働・参画に広く取り組み、県民・市民が四日市港とふれあう機会の拡大を図る。(港まつり事業予算 900 千円)

～以下、上記「親しまれる港づくり 2,947 千円」内に含まれるもので 4 点別掲～

#### 1. みなと講座の開催 250 千円 新規事業 (ただし、平成 20 年度より既決予算内で実施済)

港の歴史やしぐみについて学ぶ「四日市みなと講座」を平成 20 年度に引き続き開講するもの。講座は座学と視察 (散策、乗船、工場見学など) を組み合わせた内容で合計 8 回の予定。

#### ○2. 多様な主体の参画を進める取組 1,075 千円 新規事業

四日市港及びその周辺の歴史的な景観や文化的な遺産の認知度を高めること等を目的とし、まちづくりに関わっている地元自治会、公募委員、市民活動団体、学生、港湾関係事業者、みなとサポーターなどによるワークショップを開催し、散策ポイントや案内方法の掘り起こし、市民に周知する方法の検討、案内看板の作成、設置等を行う。

#### ○3. 親子みなと学習会、現場見学会の開催 94 千円 新規事業

港のしくみ、歴史、物流面における役割の重要性などを小学生に理解してもらうため、通常、展望展示室で実施されている社会見学とは別に、物流の現場や歴史、安全、環境面での取り組みを間近で学習する機会を提供する。(親子あわせて 40 人程度の募集予定)

#### 4. 開港 110 周年記念事業 500 千円 新規事業

記念式典の開催。式典では、個人・団体・企業あわせて 30 者程度を表彰する予定。

### ○広報活動の推進 2,090 千円 [H20]2,518 千円

四日市港に関する理解を深めていただくため、「四日市港ニュース」や各種パンフレットの作成により、四日市港に関する情報の発信を行う。「四日市港ニュース」については、四日市市内配布に加え、平成 20 年度から新たに三重郡 3 町 (川越、朝日、菟野) にも配布している。

### ○[再掲] 千歳運河物揚場の石積補修 10,000 千円 [H20]27,000 千円

千歳運河の物揚場 (総延長約 1,900m) は石積みであり、修景上の配慮も必要な状況にあるが、老朽化により一部には崩壊しているような箇所もあるため、石積みによる修復を引き続き行う。平成 21 年度は千歳 4 号物揚場の修復を前年度に引き続き行う。

## 政策体系外の予算

### ○人件費 767,872 千円 (うち特会 194,378 千円) [H20]772,187 千円 (うち特会 178,250 千円)

(注)人件費については、下記の表のような振り分けであり、上記の金額 767,872 千円には事業事務費負

担分が含まれていない。

### 人件費一覧

(単位:人、千円)

	平成21年度当初予算						平成20年度当初予算					
	一般会計		特別会計		総計		一般会計		特別会計		総計	
	人数	予算額	人数	予算額	人数	予算額	人数	予算額	人数	予算額	人数	予算額
議員報酬	9	5,220	0	0	9	5,220	9	5,220	0	0	9	5,220
監査委員報酬	2	336	0	0	2	336	2	336	0	0	2	336
特別職	1	17,765	0	0	1	17,765	1	18,191	0	0	1	18,191
一般職 (児童手当含む)	64	548,995	22	189,078	86	738,073	68	569,205	22	173,035	90	742,240
その他	-	1,178	-	5,300	-	6,478	-	985	-	5,215	-	6,200
人件費計	76	573,494	22	194,378	98	767,872	80	593,937	22	178,250	102	772,187
事業事務費負担分	4	27,532	7	54,320	11	81,852	5	33,515	2	13,520	7	47,035
総計	80	601,026	29	248,698	109	849,724	85	627,452	24	191,770	109	819,222
+ + 管理組合職員分	69	594,292	29	243,398	98	837,690	74	620,911	24	186,555	98	807,466

○公債費 4,539,447千円 (うち特会 1,688,846千円) [H20]4,679,223千円 (うち特会 1,865,839千円)

一般会計 2,850,601千円は平成23年度のピーク 3,020,488千円(見込)まで増え続ける。特別会計は平成18年度のピーク 2,048,870千円から減少している。

○事務経費 402,119千円 (うち特会 194,285千円) [H20]367,872千円 (うち特会 105,065千円)

庁舎の維持管理費 127,119千円、石原廃棄物埋立護岸補助金返還金 68,488千円、消費税措置費 80,000千円、港湾整備事業基金積立金 40,977千円(基金利子分)、ひき船事業基金積立金 19,655千円(基金利子分+ひき船事業収支の黒字分)等を計上した。

[備考]

●IT関連経費 30,664千円 (うち特会 9,098千円) [H20]35,757千円 (うち特会 10,746千円)

港湾情報システム・財務会計等の保守・改修経費やパソコンのリース代などであり、施策101や政策体系外の事務経費に計上している。